

平成29年度東北地域災害科学研究集会に参加しました(2018/1/6-7)

テーマ：自然災害

場所：八戸ポータルミュージアム はっち（青森県八戸市）

1月6日(土)～7日(日)の2日間、八戸ポータルミュージアム はっち（青森県八戸市）において自然災害研究協議会東北地区部会・日本自然災害学会東北支部が主催する『平成29年度東北地域災害科学研究集会』が開催され約80名が参加、52題の口頭発表と4題のポスター発表が行われました（うち災害科学国際研究所構成員による発表は7題）。本研究集会は、自然災害に関する情報を発信、共有化し、また研究成果を発表する学会で、当研究所の佐藤健教授(情報管理・社会連携部門)が平成26年度・27年度東北地区部会の部会長を、柴山明寛准教授(同部門)が幹事長を務めています。当研究所からは、災害リスク研究部門の大野晋准教授、情報管理・社会連携部門の柴山明寛准教授、佐藤翔輔准教授、寄附研究部門の安倍祥助手、林晃大助手、リーディング大学院の久利美和講師、杉安和也助教が研究発表を行いました。1日目には、一般公開の特別講演会『防災力向上、災害に強い地域をめざして』も開催され、岩手大学理工学部の大河原正文准教授より「平成28年台風10号により岩手県で発生した土石流・崩壊の特徴」、当研究所地域・都市再生研究部門 地域安全工学研究分野の森口周二准教授より「近年の豪雨災害から学ぶ現状と課題」、東北大学の首藤伸夫名誉教授より「水災害対策の変遷」と題して講演が行われました。また、2日目には、「平成29年度自然災害研究協議会東北地区部会総会および日本自然災害学会東北支部総会」も行われ、今年度の活動報告の他、今後の運営や人材データベース SAIGAIの改革・充実・整備などについて討議されました。

本研究集会での研究所構成員が関係する発表題目等は、次の通りです：

(著者名は○発表者と研究所構成員のみ記載、下線は研究所構成員)

<第一会場>

- 林晃大・山下啓・今村文彦：海岸林による家屋に関する津波被害軽減への定量的評価の試み
- 佐久間友梨・佐藤健：災害時要援護避難者数の推定による仙台市の福祉避難所の評価
- 佐藤翔輔・今村文彦：事前の備え・リスク認識・災害伝承と津波避難行動の関係-陸前高田市における事例調査-
- 安倍祥・杉安和也：2016年福島県沖地震津波を契機としたいわき市における津波災害時自動車避難の方策研究
- 杉安和也・松本行真 ほか：2016年福島県沖地震津波時における福島県いわき市内沿岸自治会の避難状況とその後の津波避難施策の検討
- 久利美和・杉安和也・松本行真 ほか：2017年インドネシアアグン火山警報での住民避難行動・予察

<第二会場>

- 佐藤大樹・大野晋・柴山明寛：東日本大震災の振動被害に基づく造建物群被害予測モデルの検討
- 大野晋：仙台市の長周期地震動分布特性と地下構造
- 三品慎一郎・佐藤健：家財の転倒防止器具補助金の利用による予測被害額の減少効果に関する研究-予測被害額に及ぼす影響因子の分析-
- 宮鍋慶介・久利美和 ほか：災害時に利用可能な通信技術を用いた防災教育に関する一考察
- 桜井梨那・佐藤健：地震災害時における指定避難所への避難者抑制に向けた目標設定に関する研究
- Ryosuke Kaneko・Miwa Kuri et al.：Evaluation of the Disaster Mitigation Action Card Game for International Students in Japan
- 佐々木隼相・久利美和 ほか：防災教育と社会実装-福島県いわき市沿岸部を事例として
- 柴山明寛・ボレー セバスチャンら：震災アーカイブの利活用を促進するためのメタデータスキーマについて

文責：佐藤健、柴山明寛（情報管理・社会連携部門）

（次頁へつづく）



林晃大助手



佐藤翔輔准教授



安倍祥助手



杉安和也助教



久利美和講師



大野晋准教授



柴山明寛准教授



森口周二准教授



第1会場



第2会場



ポスター発表



特別講演会



首藤伸夫名誉教授



大河原正文准教授



総会の様子



佐藤健部会長と
柴山明寛幹事長